令和２年度
宮崎県立日南高等学校
第３学年通信

繋げ！EXCELSIOR

令和2年　7月　31日
第　13　号

前任校では３年生の担任を６回受け持ち、多くの生徒たちと共に受験に向かい合ってきました。今回はそんな生徒たちの中から印象に残っている生徒の話をしてみたいと思います。

看護師希望のＭさん。３年連続で３年担任をした時の生徒です。２年生の時に授業を持っていたので人となりは多少分かっている、とても頑張り屋の女子生徒でした。２年生の頃までは対外模試も範囲が限られているため、第一志望の熊大もＢ判定が出るほどでした。しかし、３年生になると範囲がどんどん広くなり、また競争相手に浪人生も加わることから徐々に判定が下がり、得点率も低下していきました。模試を受けたら自己採点し、その日の内に提出することになっていましたが、私は一人ずつ受け取って一声かけて帰すようにしていました。Ｍさんはいつも最後に提出してきて、毎回涙ぐむ。ある時は教室棟が１７時で施錠されるから私の部屋（理科棟）で自己採点していいかと言ってきました。少し離れた席で自己採点をさせていると、小刻みに体が震えているのが分かります。自己採点が終わり、「どうだった？」と声をかけると大粒の涙をはらはらと流しながら、「またできませんでした・・・。」

努力しているのはよく分かる。しかし、努力がすべて報われる訳ではないのが受験である。だからと言って努力をしない訳にはいかない。何故なら成功した者はおしなべて努力してきているから。

何とか合格させてやりたい。三者面談を通し、推薦で宮崎大学の看護に挑戦、そして前期、後期とも宮崎大学に出願することとなった。受験内容は共に小論文と面接で、指導してほしいという事だったのでＭさんの担当となり、そこから長い戦いが始まりました。面接の所作から志望理由、医療の現状と課題、文章の要約から論の組み立てと、ほぼ毎日生物室に足を運んで一生懸命取り組みました。

推薦入試の発表日（１２月）、番号がありませんでしたと言って涙を流しながら前期に向けて指導をお願いしますと言い、前期試験から帰ってきた翌日（２月）には後期に向けて指導をお願いしますと言い、前期発表日（卒業式後）にも番号がありませんでしたと言って涙を流しながら後期の対策を進めていきました。後期となるとさらに判定が厳しくなるのですが、「可能性があるうちは絶対あきらめません」と言って、卒業後も制服を着て生物室に毎日やってきました。

結局後期試験も番号がなく、Ｍさんは熊本保健科学大に進学することになりました。本当に悔しい思い出です。こんなに頑張る子を要らないとはどういうことだと腹も立ちましたが、世の中にはＭさんに劣らないくらいのいい子たちが同じように頑張っている訳です。その中での勝負だから、甘くないのは当然なことです。やってもやっても、もう十分という事は決してありません。

その後しばらくＭさんは年賀状をくれました。

１年目「元気に頑張っています。いっぱい泣いてすみませんでした。学年で１位になりました。」

４年目「国家試験に合格しました。助産師の資格を取るのでもう１年大学に残ります。」

５年目「宮崎大学附属病院に就職が決まりました。病気になったら来てください。」

幸い宮大病院にお世話になるほどの大病にならずに済んでいます。

月	日	曜	行事予定（３年に関するもののみ）	朝	夕	備考
８	1	土				
	2	日				
	3	月	特編授業	○	×	７：２５校門通過
	4	火	特編授業	○	×	７：２５校門通過
	5	水	特編授業	○	×	７：２５校門通過
	6	木	終業の日・旧生徒会役員功労者表彰	×	×	８：１５校門通過
	短い夏休み でもやるべきことはたくさんある 今までとは全く異なる夏休みを過ごしてください					
	19	水	始業の日・登校指導・水曜④⑤⑥の授業	×	×	８：１５校門通過
	20	木	特編授業・登校指導	○	×	７：２５校門通過
	21	金	特編授業・オープンスクール・全統マーク模試	○	×	７：２５校門通過
	22	土	全統マーク模試　７：３０開始			
	23	日	英検二次			